

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	高分解能原子間力顕微鏡・分光法による生体分子間認識・相互作用力の直接可視化
研究代表者	山田 啓文 (京都大学・工学研究科・教授) ※平成29年6月末現在
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>液中観察が可能な原子間力顕微鏡（AFM）の解像度を走査型トンネル顕微鏡（STM）並のナノレベルまで引き上げて、高解像 AFM の研究で世界をリードしているのが応募者である。本研究は、AFM による力学的分光法の開発により、生体分子間の認識・相互作用を分子間力として直接可視化し、細胞生理機構での生体分子の微視的役割を直接観察しながら研究しようという意欲的なものである。</p> <p>この研究計画は十分に練られており実現性が大いに期待できる。また、期待できる研究成果は、これまで手つかずの領域であったナノレベルでの分子認識メカニズムの発展につながることを期待できる。</p> <p>以上の理由により、基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。</p>